

はじめに

この報告書は、2007年秋から2008年春にかけて取り組んだ二つの全国調査の結果と分析・考察をまとめたものです。一つは、全国の市町村に回答をお願いしたアンケート調査であり、自治体における放課後・休日支援の実施状況を明らかにするためのものです（自治体調査）。そして、もう一つは、障害のある子を育てておられる保護者の方々に回答いただいたものであり、放課後・休日支援の現状をふまえ、要求・ニーズに基づいて今後の支援のあり方を構想していくためのものです（保護者調査）。両調査とも、たくさんの方々のご協力により、多くの回答をいただくことができ、障害のある子どもの放課後・休日の支援に関わる全国調査として貴重なものになりました。

これら二つの全国調査の目的の一つは、障害のある子どもの放課後保障の実態を自治体と保護者という複眼から明らかにすることです。そして、もう一つの重要な目的は、どのような放課後・休日の活動が求められているのかを示すことで、今後の放課後保障のあり方を描き追求していく基盤とすることです。

現在、厚生労働省のもとで「障害児支援の見直しに関する検討会」の報告書がまとめられ、放課後・休日支援に関わることも含めて、国レベルで障害児福祉施策の見直しが進められています。一方で、全国放課後連では、「私たちの目指すもの」として放課後保障のための国レベルでの制度のイメージを提示するとともに、放課後活動事業の制度化を求める国会請願署名に取り組んでいます。国の制度のあり方も焦点としながら、放課後保障の取り組みは一つの重要な時期を迎えているといえます。

そうした状況のなかで障害のある子どもの放課後保障をさらに進めていくために、二つの全国調査が力になればと願っています。全国調査で示された実態と課題、放課後・休日支援の意義や必要性、求められている制度・活動のイメージを、できる限り広範な人々と共有していきたいと考えています。

なお、今回の全国調査は、多くの方々のご協力により実現したものです。

最後になりましたが、本調査の実施にあたって助成をいただいたキリン福祉財団の関係各位には厚くお礼申し上げます。また、調査にご協力いただいた団体・事業所・学校等の関係者の皆様、お忙しいなかアンケートに回答いただいた自治体職員の方々、保護者の方々に心よりお礼申し上げます。

2008年9月

障害のある子どもの放課後保障全国連絡会（調査研究プロジェクト）
立命館大学人間科学研究所コミュニティプロジェクト